

## 2025上田未来会議グループ発表:各グループの取組み(結果)

「上田未来会議」では、学生(高校生・大学生)と市民が、一緒に上田市のことについて「学び」、話し合いを通じ、課題解決能力、疑問提起能力、思考力など「探究する力」を培う場の提供を目的としています。

内容は、約半年かけて、グループに分かれ、身近な地域課題に向き合い、解決策を考えまとめるといふものです。その際、誰かに何かを要望するのではなく、「自分たちでできること」を中心に解決策を考えていただき、できることから始めるきっかけなればと思っています。

結果発表会が12月13日に行われましたので、参考までに、その結果を共有します。

### <発表要旨>

#### 第1グループ:【環境・自然】「清潔で居心地の良い街をつくる」

「清潔で居心地の良い街並みづくり」は、現状のゴミのポイ捨てや雑草の放置といった問題に対し、地域全体でその美化に取り組むことを提案する。そのために、市民が当事者としての意識を持ち、協働する仕組みを構想する。これにより、街並みを改善するだけでなく、市民の地元への関心と愛着を育むという内容を発表

#### 第2グループ:【教育・学習】「経済的な困難を抱える子供たちの学習支援、居場所づくり」

「子どもにまつわる問題」を出発点として議論した。多様なメンバー構成ゆえに議論は難航したが、前提を共有する過程で、「挨拶」が重要であると、一つの結論を出した。

このディスカッションの過程と、なぜ「挨拶」が鍵となるか、その具体的な結論と意義を発表

#### 第3グループ:【福祉】「障がいのある人、ない人との間で継続的な社会との交流を増やすには？」

障害のある当事者(かりがね福祉会)の方が参加したことで、どう接すればいいのか戸惑いから始まった話し合いは、自然な交流や継続性の重要性に気づく時間となった。

誰もが生きやすい社会とは何かを、多様な視点で話し合った結果を発表

#### 第4グループ:【高齢化社会】「生活の質向上のための手段、移動手段を確保する」

私たちは、歳を重ねながらもできる限り自立した暮らしをしていきたいと願っている。しかし、実際は免許の返納に伴う買物難民や社会参加への機会が薄れていく現状にある。

これからの時代、ただ単に交通機関が“ある”というのではなく、個々の QOL を守られる交通機関のあり方など、交通機関のハブ化などを含めた路線の再構築について話し合い考察した内容を発表

#### 第5グループ:【コミュニティ・地域活性化】「上田市をコミュニケーションオアシスの名産地に」

テーマについて考える中で、お年寄りや子どもたち、移住者やリターン者など、多くの人々が孤立しているという「問題」に気付いた。こうした人々が関われる「場・機会づくり」を「課題」とし、公共施設の開放といったハード面と、井戸端会議の開催やキーパーソンの育成といったソフト面に分けて、「解決策」を話し合った。こうしてできた場を「コミュニケーションオアシス」と称し、上田市をその名産地にしようと考えた。

#### プロジェクト M:【若者の居場所】情報発信

3年間、未来会議で「上田に学生の居場所があるのか。必要なのではないか。」というテーマで話し合ってきたメンバーが、「居場所はあるけど学生にその情報が届いていない」という結論に達し、今年は「実践チーム」へと進化し、学生470名のアンケートや未来会議参加者の意見を元に居場所ガイドを作成し、目印のステッカーの作成などを始めた。その途中経過と今後の取組みを報告